

## カメルーンと大分の架け橋に

大分を介していくと進出しやすいという環境を構築し、双方の発展に寄与したい。

株式会社 TMT. Japan

代表取締役 横山朋樹

TMT. Japanは大分の中小企業3社により「海外で面白いことがやりたい」との目的で2012年に設立された。

海外の国々とつながることを視野に、水を使わずに汚物を微生物の力で分解処理できるバイオトイレをその手段・商材として活用、JICA「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」に採択されカメルーンで現地生産体制を構築している。

### 初の JICA 中小企業支援案件

なぜカメルーンか。海外とつながることを意識した場合、日本企業の進出が少ない地域が良いのでは、という発想からアフリカに注目した。54カ国もある中でカメルーンを選んだのは、

単に「サッカーが強い」という理由だった。

実際にカメルーンに行ってみると、確かに日本企業の進出はほとんどない。JICA 事業に採択された当社の提案は、カメルーンにおける初の「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」だった。おかげで、カメルーンの政府関係者とも直接会って意見交換を行うことができた。事前にあれこれ調べることなく、「まずは行ってみる」ということを実践した結果、良いご縁に巡り合えたと感じている。

当社のカメルーン進出の目的はバイオトイレの展開だけではない。どんなことでもいい、面白いこと（もちろん、バイオトイレの展開も含む）がしたかった。日本企業の進出が少ないだけに、私たちの経験が日本企業進出の橋渡しに役立つに違いない。当初から、日本の何がカメルーンで活用できるのか、社会課題の解決につ



JICA「中小企業・SDGs ビジネス支援事業～普及・実証事業～」で、バイオトイレ4台を国立ヤウンデ第一大学に設置（その他の場所も含め合計16台を設置、現在も稼働中）



首都ヤウンデ市主催トイレ受領セレモニー。市庁舎前広場に設置した2台のバイオトイレ前で。左から岡村日本国大使（当時）、ヤウンデ副市長、筆者